恐れてはならない

イザヤ41：８－１３

2021/1/10

　恐れてはならない。これは聖書が繰り返し記している、神様の語りかけです。私たち、天地創造の神、万軍の主を信じている者たちは、何事についても、どんなことに遭遇しても、恐れるべきではないのです。イエス様は、鼻から息の出入りする者を恐れるなとも、魂を滅ぼすことができない者を恐れるなとも、語り、励ましてくださっています。主が私たちの味方ならば、誰が私たちに敵対することができるでしょうか！！

Ⅰ．恐れると正しい対応ができなくなります

　なにごとでも恐れると、正確な判断も正しい行動もできなくなってしまいます。そのよい例が、コロナウイルスに対する今の日本政府の対応です。政府の対策が非常に遅く、きちっとしたことが何も言えていないと、誰もが感じます。政府には恐れがあるのです。特に感染症対策に関しては、厚労省（かつての厚生省）には、苦い体験から来る強い恐れがあります。

　正確な年代は忘れましたが、数十年前、日本政府は子宮頸癌という女性特有の疾患を防ぐため、かなり大々的にワクチン接種を促しました。ところが、またも、副作用が出たとメディアに大騒ぎされ、政府はワクチン推奨を取りやめるまで、追い込まれてしまったのです。

　その後の調べで、メディアの報道がまったく間違っていたことが明らかになりましたが、「時すでに遅し」だったのです。国民の多くは、いまだに、このときメディアが流した偽情報に引っかかっていて、子宮頸癌ワクチンに疑いを持ち、無料で受けられるワクチンを無視しています。そのために、毎年 1 万人ほどの感染者が出、死者は 2800 人ほどにも及んでいます。他にも、妊娠ができなくなったり、子宮を摘出しなければならなかった女性が、たくさんいるとのことです。メディアという悪質なウイルスに感染し、恐怖という病に感染してしまった日本国民の現状です。ちなみに、先進国と言われる中で、子宮頸癌のワクチンを無視しているのは日本だけで、これほど多くの死者を出しているのも日本だけです。

この苦い経験が、厚労省と政府にとってトラウマとなって、今回のコロナウイルスに関しても、迅速な対応ができない大きな要因になっているのです。また多くの日本人も、このことからワクチンそのものに不信を持ってしまい、（現在の日本の子宮頸癌ワクチンの接種率は 0.6 パーセント）コロナウイルスワクチンの接種までも、拒否すると言っています。懲りないのは、責任感のないメディアです。

Ⅱ．恐れは感染します

恐れは急速に周囲の者を巻き込みます。そして集団パニックに陥るのです。メディアは際限なく視聴率を稼げる情報を探し出し、時には捏造さえして流し続け、（子宮頸癌ワクチンの時のように）ますますパニックを拡大します。もっと落ち着いた、確固たる対処が必要なのですが、すでに恐れがここまで広がってしまいました。左メディアと有識者と革新系の政党の反対によって流れた特措法も、もっと早く制定されるべきだったのです。特措法に反対した人々が、今になって、政府の対処が遅いと叫んでいます。

人類の歴史上、幾度もパンデミックがありました。数百万、数千万の死者が起こったものもあります。医療が現代ほど発達していなかったころのパンデミックは、実に悲惨なものでした。

それでも、人類としては生き残ってきたのです。私たち現代人は、個人を尊重し自由と人権を重視しますので、その観点からパンデミックを見がちです。しかし、初めから人間は社会的動物として造られているのです。神様は一人の人間をご覧になると同時に、人間という大きな枠でも、ご覧になっておられるのです。私たちも、自分という個人の視点と、人類の一員としての視点を持ちましょう。クリスチャンとして、恐れの連鎖、感染を食い止める働きをすべきです。

Ⅲ．恐れは罪の結果です

本来、創造されたばかりの人間に、恐れという感覚はなかったと思われます。恐れるものがなかったからです。あえて言うならば、神様を畏れる気持ちはあったことでしょう。でもそれは恐れとは異なったものです。

恐れが人間の感情の一つになったのは、罪のために神から隔離され、死というものが入り込み、悪魔の過酷な支配が現実になったあとです。神様への信頼がうすれたために、神様の守りと助けを実感できなくなってしまい、人生そのものが不安になってしまったのです。

クリスチャンは、神への信頼を取り戻した人たちです。基本的に、神様を信頼して生きる人たちです。それなのに、まだ恐れの感覚が残っているために、聖書の「恐れるな」という励ましが必要になるのです。神様が味方であることを思い起こすのです。

Ⅳ. 正しく恐れましょう

神様を信頼するクリスチャンは恐れるべきではありません。しかし、言葉の使い方ではありますが、正しく恐れることは必要です。警戒をする、注意深く生活するということです。コロナウイルスで言えば、きちっと 3 密を控え、マスクを着用し、手洗いなどの消毒を習慣化することです。また、無用の外出を控え、特に人ごみは避けることです。政府の要請あるいは規制がたとえ不完全であったとしても、それに従うのが国民としてのクリスチャンの在り方です。マスクを着用しないまま、多くの者が一緒に食事をしたり、酒を酌み交わしながら大声で盛り上がったりするのは、現時点ではもっての外です。

子宮頸がんについては、厚生労働省はいまだに恐れを引きずっていて、その危険性ははっきりしているのに、消極的な発表と要請しかしていませんが、小学 6 年生から高校 1 年生の女の子は無料でワクチンを受けられます。3 回の接種が必要ですので、早めに済ますのが大切です。高校 1 年を過ぎると1回 16,000 円ほどの費用が掛かります。合計で 50,000 円近くになります。それでも、受けるのが良いと思います。これを知らなかった方は、できるだけ早く対処しましょう。（牧師は 7，8 年前から、このことについて皆様にお伝えしようと、考えていましたが、いつの間にか忘れていました。深くお詫び致します。）また若い女性やその家族には、教えて上げましょう。知らないで感染したまま出産を迎えたために、死んでしまった母親もいます。つい三日前の国立癌研究センターの発表によると、新生児が羊水を通して肺癌になった例さえ出ています。

カリフォルニアに在住している娘に問い合わせたところでは、アメリカでは 16 歳以上の女性は年に一度、もしくは 2 年に一度検診を受けるように勧められ、女性の生殖器に関わる5つの癌の早期発見を促されています。また、ワクチンも 2 種類はあるようです。ですから、医療制度の劣るアメリカでも、子宮頸がんの発症率は日本ほど高くありません。日本では羞恥心が先立つ国民性から、検査はあまり推奨されないことでしょう。しかし、これは死亡率が高い癌の話です。インフルエンザも高齢者の入浴も餅を食べることにも、正しく恐れることが必要です。それぞれ毎年多くの人が死んでいるのです。正しく恐れ、良い対処ができると、犠牲者は激減します。

　私たちの安心は、神様の究極的な守りにあるのです。一羽の雀が地に落ちて死ぬことがあっても、神様の知らないところで地に落ちることはないのです。私たちは、一羽の雀に勝って、神様に愛され、受け入れられているのです。